

第 13 回子育て支援分科会開催報告

20.8.29.

分科会主査（代行）：八木英樹

開催日時	8月21日（金）16:00～15:20（Zoom）
参加者	東京大学・高齢社会総合研究機構(IOG)：3名、 地域包括支援センター：1名、町内会：4名、

1、コロナ禍対応のアンケート(回答分析結果の報告)

7月下旬～8月8日、町内に居住する子育て世代の皆様を対象にお願いしたアンケートの回答の分析結果を荻野先生にご報告いただいた。

[回答者数] 45名（9割は女性）。年齢は40代：53%、50代：27%、30代：20%

[働き方]フルタイム就労：5割弱、パート・アルバイト：3割

[在宅勤務の度合い]毎日：1/3、数回/週：3割、なし：4割弱

[回答の分析結果（要約）]

- ・在宅勤務と子供の休校が重なっても家庭内の空間部分の満足度は高い（戸建ての強み）
- ・家族で過ごす時間が増え、外出と趣味の時間等は減少。
- ・育児時間が大幅に増加（勉強・学習の指導、一緒に遊ぶ等）
- ・子供と向き合う時間が増えたことで、子供の理解に一定の効果があるが、負担も増す。親のストレスを軽減するチャンネルは少ない。子育てへの協力者も多くない。
- ・子供の生活面：友人との遊び・交流の減少、屋外での活動時間の減少、自宅以外の屋内での遊びや交流、学びや体験機会の減少が顕著。

[回答者へのご報告]

分析結果の要約版を作成し配付（配付方法は大平山、丸山各地区の子供会と相談する）

2、アンケートで要望された子育て支援策への対応

1) Zoomによる地域交流活動

外部或いは町内の有識者による情報提供、
親同士の情報交換（テーマとコーディネータの選択が鍵）

2) コロナ禍対策を講じた上で、町内会館における子供向け習い事の提供

1)、2)ともに内容につき、さらに考慮の上、次回分科会で協議する。

3、次回分科会

東京大学 IOG の先生方のご都合をご連絡いただき、9月後半で設営する。

以上